

どんなかたちのものにも華麗に印刷

第2回ものづくり日本大賞
内閣総理大臣賞受賞

(株)秀峰 代表取締役社長

村岡 貢治

産 業や経済の構造改革のなかで、いま日本のものづくりが注目されている。先端的な機能や繊細な技術だけでなく、ものかたちの美しさ、鮮やかな色彩や模様など、日本の持つ美への感性が世界的に評価されてきている。

その一つが曲面・球面への高精度の印刷技術だ。私たちの身近にある様々な製品、例えば鮮やかな眼鏡のフレーム、カラフルな携帯電話、自動車のハンドルなどにも使用され、商品のデザイン性を高めている。この技術を開発したのは福井県に籍をおく「秀峰」の村岡貢治社長と4人の技術者たち。2007年度の第2回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞した。

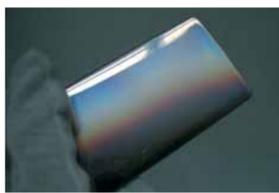


第2回ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞を受賞したグループメンバー。中央が代表取締役社長の村岡 貢治さん。
写真出典：(社)日本機械工業連合会「22チームの熱き結晶」より

でこそ当たり前前に目にしている技術だが、曲面・球面への印刷は従来不可能といわれていた。その不可能を可能にしたのは、村岡社長と4人の技術者の豊かな発想力と新しい技術創造への不断の努力によるもの。「印刷についてまったくの素人だったからこそ思いついた。」と語るのは村岡社長。約10年の歳月を経て、ついに10ミクロンレベルの精密さで、点や線の立体物への直接印刷に成功した。他にも、極細の配線そのものをメッキ印刷し通電させるという、電化製品の二層の小型化・軽量化を可能にする技術を開発するなど、技術の詳細は門外不出だが、その開発力は多方面で期待されている。

「越前の国」と呼ばれる時代から、福井県は京の都に近い畿内という地の利と多彩な資源、四季のメリハリある自然を反映して、漆器や塗物、和紙や竹人形、水引などの工芸品を生み出すなど、昔から地場産業が盛んな伝統ある土地柄。近代から現代にかけても絹織物の羽二重や眼鏡などの特産品を輩出し、独自の発展を遂げてきた。現在では13の製品と技術が世界シェア第1位、53の製品と技術が国内シェア第1位を占めている。

いま、福井県では「実は福井の技」というキャンペーンを行うなど、地場の産業技術の活性化に意欲的だ。また先端マテリアル、レーザー高度利用、バイオ、原子力などの最先端技術の創出育成に力を注いでいる。この秀峰の技術も今後さらに磨かれていくことだろう。



特殊印刷、特殊アンダー技術、蒸着技術(金属等を蒸発させて素材に付着させる技術)の複合により、蒸着が虹色に輝いている。



携帯電話の装飾はお任せ。パーツを組み合わせたときの模様のズレがない。



携帯ボディの印刷フロア。企業秘密がたつぷり詰まっている。



極細配線そのものを印刷し、メッキをつけて通電。電気製品の小型化に寄与。



従来、球面・曲面への印刷は、転写フィルムを介して写し取る方法でしかできなかったが、球面・曲面の直接対象物に高精度な印刷をする技術を実現した。



(株)秀峰

本社 福井市大土呂町2-5-5
設立 1983年8月
資本金 4億3000万円
従業員 80人
事業内容 眼鏡、自動車内装材、ハンドル、携帯電話など 曲面、球面特殊印刷
電話番号 0776-39-0800
<http://www.shu-hou.co.jp>

ものづくり日本大賞とは

わが国の産業と文化の発展を支え、国民の生活形成に貢献してきた「ものづくり」を今後も継承していくために、伝統的、文化的、先進的な技をもつ人材をひろく表彰するもので、文部科学省、通商産業省、厚生労働省、国土交通省によって平成17年に創設された。

